

金沢城下町の様相－広坂遺跡出土品の変遷から－

庄田 知充（金沢市埋蔵文化財センター）

広坂遺跡の居住者層と時期区分

広坂遺跡は金沢城南方に位置し、遺跡の南辺は慶長16年（1611）築造の西外惣構により区切られる。遺跡は外惣構造成以後都市的様相を示す。惣構を軸線とした溝に区画された方形の田の字形区画は、慶長16年の「金澤侍屋敷之定」から500～2,000石前後の武家居住地と比定できる。慶長期の遺物のほとんどが元和～寛永期廃絶の遺構から出土した。史料と対比できる画期は、寛永8年（1631）、元禄3年（1690）、宝暦9年（1759）の大火である。絵図によると居住者層は、正保期が4,000石～1万1,070石、寛文期以降が200石～3,000石の直臣である。本遺跡では、藩政期を通じてほぼ類似した階層が居住したため、人持～平士クラスの武家における陶磁器の所有状況を年代を追って検討することができる。

広坂遺跡における火災などの事件を画期として、I～IV期に区分し、他地域の比較資料からの推定画期を枝番号として時期設定した。各時期区分については下記の通りである。

I－1期…16世紀末～17世紀1／4（「元和九年」木簡出土ⅡSX2013下限）。I－2期…17世紀2／4前半（寛永大火下限）。Ⅱ－1期…17世紀2／4後半～3／4。Ⅱ－2期…17世紀3／4末～4／4中頃（元禄大火下限）。Ⅲ期…17世紀4／4後半～18世紀3／4前半（宝暦大火下限）。Ⅳ－1期…18世紀3／4後半～18世紀4／4。Ⅳ－2期…19世紀1／4～3／4前半

出土陶磁器産地組成の変遷

I－1期…磁器は中国磁器のみで構成される。陶器は肥前（碗・皿・茶陶・擂鉢・甕・瓶等）が圧倒的多数だが、瀬戸美濃（茶陶・皿等）、越前（擂鉢・甕）、備前（擂鉢・瓶等）、越中瀬戸（茶陶・皿等）、信楽（茶陶・壺・花生等）等、それぞれの産地の特色が反映された多彩な組成となっている。

I－2期…基本的にはI－1期の組成を引き継ぐが、偏在的に肥前磁器を包含する遺構がみられる（2時期に細分される可能性あり）。火災片付土坑では、同形態の皿等の一括廃棄が見られる。Ⅱ－1期前半…前代の寛永大火でストックが廃棄され、まとまって新規購入したことが原因か、産地に極端な変化と偏りが見られる。前代までとは中国磁器と肥前磁器の比率が逆転し、圧倒的に肥前磁器が多くなる。碗・皿類で磁器と競合する肥前陶器の比率が減少し、肥前磁器と同程度もしくはそれを下回る。その他の陶器産地の比率も軒並み減少し、とくに越前・備前・越中瀬戸の減少は、主要器種である擂鉢が肥前に置き換わるためであろう。茶陶の減少から瀬戸・美濃陶器も減少する。Ⅱ－1期後半…肥前磁器が圧倒的優勢で、肥前陶器は漸減する。中国磁器はなくなる。Ⅱ－2期…肥前磁器が圧倒的優勢で、肥前陶器の比率は低迷する。Ⅲ期前半にかけて瀬戸・美濃陶器はほとんど見られない。Ⅲ期前半…京焼がはじめて組成の中に現れる。肥前陶器は減少傾向が続く。Ⅲ期後半…肥前磁器が圧倒的に優勢で、陶器は肥前が激減するが、京・信楽系が碗を中心に増加傾向となる。瀬戸・美濃陶器は碗類を中心に少量出土。須佐（擂鉢・鉢）が出現するが、Ⅳ－2期まで比率に変化はなく、生産規模の問題であろう。Ⅳ－1期…肥前磁器が微減する。肥前陶器の大形品の存在や、京・信楽系陶器（碗・土瓶）と産地不明の製品が増加することの影響であろう。Ⅳ－2期にかけて中国の清朝磁器がわずかに現れる。Ⅳ－2期…肥前磁器はⅣ－1期と同程度で、新たに瀬戸磁器、九谷磁器が組成に表れる。肥前陶器がⅢ期後半以来一定量あるのは、擂鉢・刷毛目系の鉢・皿に器種が固定化されているためであろう。京・信楽系陶器の器種は、碗・土瓶・土鍋に集約される。瀬戸・美濃陶器は相変わらず多くはないが、鉢や植木鉢、（組成には表れないが火鉢）など器種分化が進み、バリエーションにとんだものとなる。

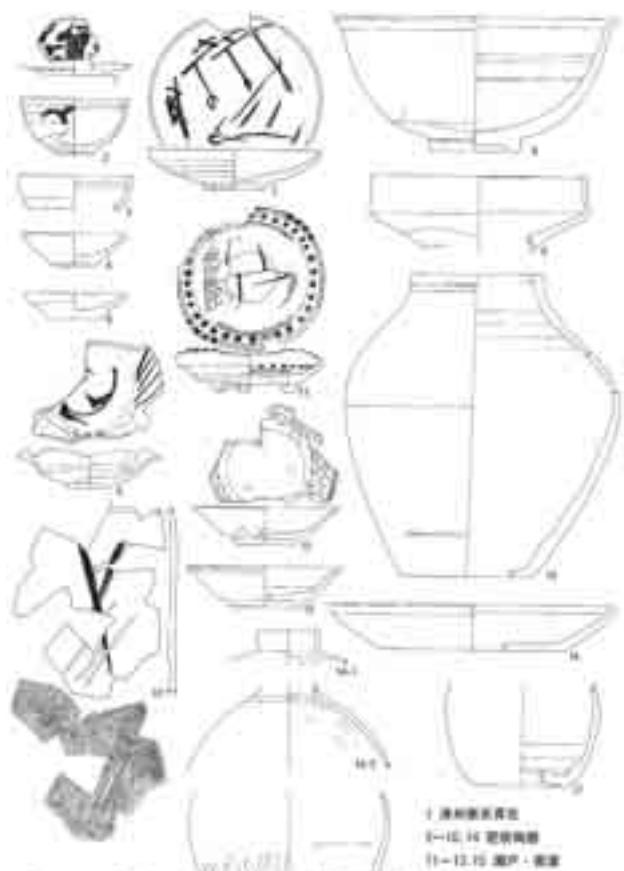


1-2, 4 墨書き漆器
3 漆器漆器青花
5 青花
6, 8, 10, 14-18, 22 漆器漆器
7, 9, 11, 13, 15, 16, 19, 20, 21 漆器
12 漆器青花
22 漆器漆器

第1図 II SX2013 (I -1期) 「元和九年」墨書き木簡共伴



第4図 I SX3070 (II -2期前半)

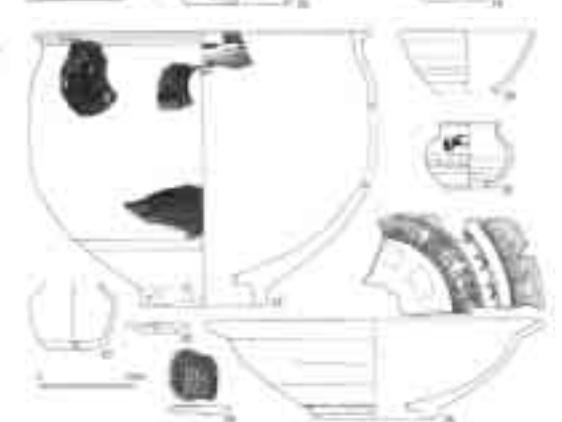


1 漆器漆器青花
2-10, 14 漆器漆器
11-13, 15 漆器・青花
16 青花
17 青花



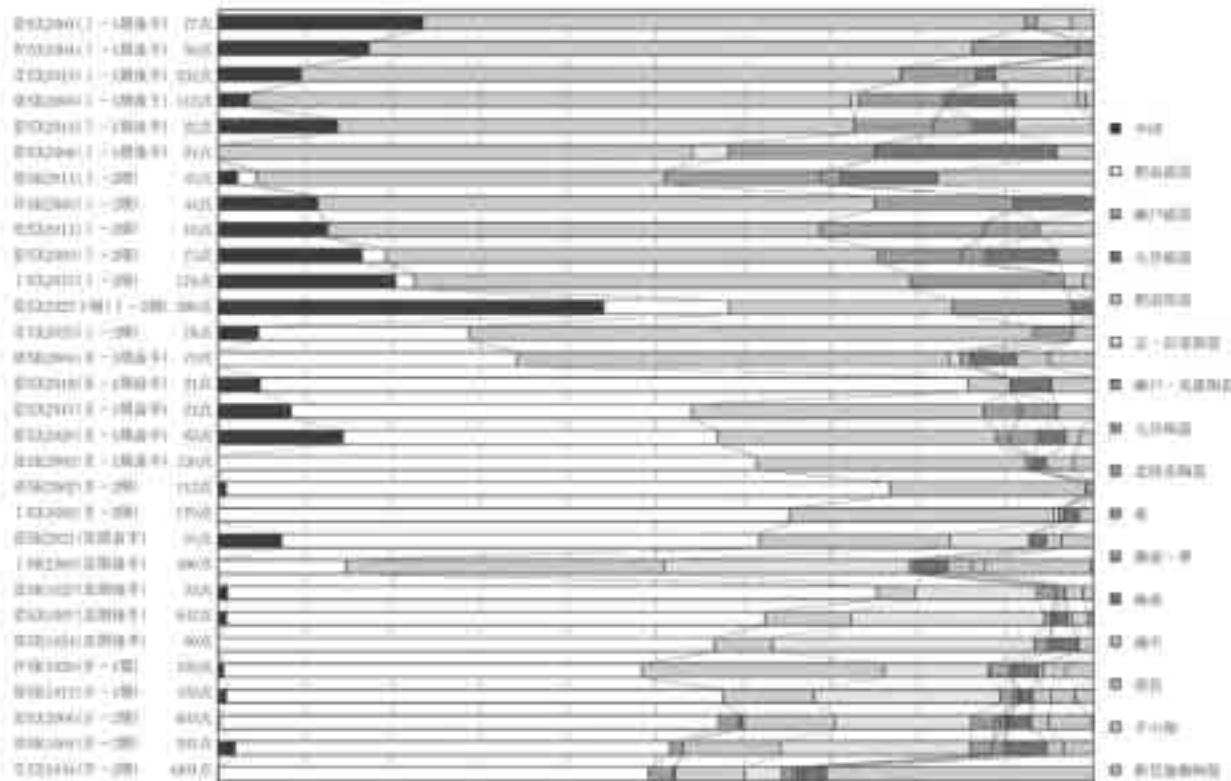
1 漆器漆器
3-10 漆器漆器
8 青花
11 漆器

第3図 I SK2421 (II -1期前半)



第5図 II SK1083 (II -2期末) 元禄大火

広坂遺跡出土陶磁器产地組成



萬卡伊在進一步研究他們的愛物的性質。

以下詩作「明治詩人集」に収載された西田胡蘿蔔「市原藏文元野セトタ」を抄

六千機子（財）相模人形（市文化振興財團）相模縄文文化センター 115